

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102347		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家		
所在地	長崎県西海市西彼町小迎郷1074-3		
自己評価作成日	令和6年9月18日	評価結果市町村受理日	令和6年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 6年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「夕暮れ時にも輝く人生」を理念とし「入居者が主役、スタッフは脇役」の標語のもと、尊厳をもって介護をしている ・看護師・介護員・病院が連携し、ターミナルケアに取り組んでいる ・スタッフの学びたいという気持ちを大事にし、研修・受験にかかる費用を補助している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念“夕暮れ時にも輝く人生”と、年間目標“入居者の行動を止めるような声掛けをしない”に沿い、自力で出来ることを見守り、必要な時には声掛けしながら支援している。また、職員は人生の先輩として入居者を敬う心を大切にし、常に敬語で話し掛けている。食事は入居者に食べたいものを聞き、冷蔵庫の材料で野菜中心のバランスの取れた献立を提供しており、リビングは食事の匂いが漂い、家庭の温かみを感じることが出来る。運営面では、職員の要望がサブリーダー、管理者、社長へと繋がるボトムアップの仕組みがある。自己評価を基にした管理者との面談では、資格取得について本人の考えを聞いている。職員の研修費用補助、旅行補助等の福利厚生面が充実しており、永く働き続けることができる職場環境を整備している。敷地内には、入居者の納骨堂があり、安心して人生の帆を降ろすことができるよう最期まで寄り添う事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットで朝礼後唱和を行い、チームとしての再確認をし、質の高い介護の実現に努めている	開設時からの理念と年間目標及び各ユニット目標を事業所内に掲示し、申し送り時に唱和している。新入職員には社長が理念について説明し、各ユニット配属後も研修等で伝えている。連年の年間目標“入居者の行動を止めるような声掛けをしない”を念頭に、職員は入居者の思いを尊重し、敬う心を持って支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に外出するようになったのはごく最近で、感染症対策もあり地域の方との付き合いをどう再開していくかが課題となってる	散歩時には近隣住民と挨拶を交わしている。自治会への加入はないものの、火災通報装置には地域住民の登録がある。近くの駐在所から署員交替の挨拶に訪れている他、今年は複数の高校生の職場体験を受け入れている。法人は事業所に併設している集会室を市民に提供しており、牧師や地域住民との交流機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症対策の下での地域貢献は今後の課題として検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和6年6月より対面での運営推進会議をコロナ以前とほぼ同じ内容で開催している	2ヶ月に1回会議を実施している。今年6月から対面での会議を再開しており、入居者の現状や活動内容、事故の報告の他、参加メンバーによる意見交換が行われており、外出や外泊、今後の外部との交流について意見が出ている。ただし、出た意見がどう活かされたか議事録から確認できない。また、家族等への周知はこれからである。	会議での意見等を運営に活かすため、多方面から多くの意見や要望を吸い上げ、検討した内容を事業所に関わる人たちに周知を図る取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話等で空き状況を伝えている	市担当課に運営上分からないことを相談したり、事故報告や事業所の状況等伝えている。また、家族が市の安心サポート制度を利用する際、事業所が手助けを行っている。担当課職員が入居時の立会いや定期的に面会に訪れており、行政と協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1回実施している。その活動の一環として、年に2回全職員の研修を行っている	指針を整備し、3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開いている。9月に研修を行っており、年度中に再度実施する予定である。事業所全体の年間目標に“入居者の行動を止めるような声掛けをしない”とあり、職員は入居者を敬い丁寧な言葉遣いで支援している。気になる言葉掛けには、職員同士で注意し合ったり、管理者が指導している。	

グループホーム希望の家（ユニット1・2・3共通）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	Web研修以外にも集合研修も以前のように行えるようになっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	キーパーソンだが血縁関係もなく、なるべく携わりたくないという方が市の安心サポートに相談できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所時にわかりやすく説明を行い、不安や疑問がないか確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にほぼ制限がなくなり、ご家族と直接話をする事が出来ている	2ヶ月毎に希望の家だよりで暮らしぶりを伝えている。現在、居室での面会が可能であり、多くの家族が面会に訪れている。タブレットでのLINE通話は遠方在住の家族と入居者本人を繋ぐツールとなっている。面会時等に家族からの要望等は面会時や電話で聞き取っており、外出に関する質問や持ち込み品について、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティング等で出た意見を管理者が主任会議の場で協議している	ユニット会議で出た職員の意見や物品購入の希望は、社長同席での主任会議で協議する仕組みがある。管理者は毎年、職員の自己評価を基に面談し、資格取得や希望休等の要望を聞き、アドバイスしている。福利厚生制度や職場環境を整えることで、職員の満足度も高く、勤務年数が長い職員が多数在籍している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の事情を管理者が把握し、勤務表の作成を行い代表へも報告している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数ごと個々に合った研修をすすめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Web研修は引き続き行っているが、直に会っての交流は各職員が個別に参加する研修の交流に留まっている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時からの聴き取りや情報提供等でその方を理解し、無理のないサービス計画を作成している。コミュニケーションを図り、信頼関係に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話等で家族の意見を傾聴し、会社の方針や対応例を伝え、安心して頂けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聴き取りを行い、課題を全員で検討している。本人の要望も取り入れ、日常生活状況をみながら、必要としている事を支援できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必ず説明と同意を確認し、信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方のご家族にはLINE電話等を使い、家族との絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで住んでいた土地を訪れたりして、関係が途切れないように支援している	担当職員を中心に、職員間で本人の生活歴を基に馴染みの人や場所等の共有を図っている。家族や知人の訪問も戻りつつあり、訪問時はイベントでの写真を見て楽しんでいる。法事へ出掛けることもある。畑仕事や編物等の趣味の継続や読書、DVD鑑賞等、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングソファにて雑談、手作業、テレビ鑑賞などを行っている。円になって体操や歌を歌い、孤立しないよう利用者同士が関わりあっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も外で会った時には近況を尋ねたりし、相談があれば親身に答えるようにして関係性を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望をよく聞き、思いに添った支援を行っている。またスタッフ全員がその事を共有するようにしている。家族にもその旨を伝え協力を求めている	入居者は、職員に自分の思いを気軽に伝えている。夫婦が向かい合せに居室を移した事例がある。気持ちを表出しにくい入居者には、日頃の会話や表情から汲み取り、食べたい物を買に行くことがある。ポータブルトイレを手が届く範囲に備えたり、起床時間も無理強いしない等、入居者の思いに沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に収集した情報をよく理解し、ご家族とも共有しながら、これまでの生活歴を全スタッフが把握する様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の流れを把握し、変化があった事は必ず記録し全スタッフが共有するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーや計画作成者を中心とし、ミーティング等で課題とケアのあり方を考え、介護計画を作成している	本人のできることを中心に、家族の要望も取入れ暫定プランを作成し、1ヶ月を目途に見直し、介護計画を作成している。毎月のモニタリングは担当職員が行い、カンファレンスにて全職員の意見や主治医の意見を集約し、見直しに繋げている。家族の意見は電話や面会時に、遠方の家族へはLINEを活用し、了解を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者が実施したプランの記録をみてモニタリングを行い、他のスタッフの意見等を参考にし、次の計画に活かしている		

グループホーム希望の家（ユニット1・2・3共通）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族にとって一番いいサービスを提供できるようにスタッフ間で話し合い、納得いくものになるよう努めている。帰宅願望がある時は一時帰宅など、希望に沿ったサービスを提供している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用は出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異変があればすぐに他診療科の受診ができるよう、主治医と連携し受診に繋げている	契約時に説明し、殆どの入居者が看取り支援が可能な協力医をかかりつけ医としている。定期受診は職員が支援しており、他科は職員他家族が付き添うケースもある。受診結果は双方で共有している。職員は、夜間緊急時の手順を把握しており、看護師の資格を持つ職員は入居者の健康管理や職員への助言を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化を看護師に相談し、適切な医療的ケアを受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族にも報告を行い、病院・施設・家族での関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期を迎えた時は、ご家族や医療関係者と十分な話し合いの場を持ち、本人に一番よい方向で支援できるよう努めている	契約時、家族は延命治療や看取りへの意思書面にて提出している。重度化に伴い、家族、主治医、管理者の三者で協議し、再度、契約書に署名後、看取り介護計画書を作成している。看取り支援では、看取り後のカンファレンスや研修にて、本人、家族がより良い終末期を迎えられるよう支援の意識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナでしばらく訓練は出来ていなかったが、救急救命講習を予定している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災委員を構成し、年3回避難訓練をを予定している。また、防災備品の点検と在庫チェックを行い、全スタッフがその場所を把握している	1年間で夜間想定を含む火災避難訓練を3回実施しており、訓練には非常勤を含む全職員が参加している。BCPを整備し、備蓄品も確保している。現在、停電時の非常電源を確保するよう計画中である。防災委員会では、地震や水害に対する問題点を話し合っているものの、自然災害の訓練はこれからである。	地震や台風等の自然災害の発生時、確実に対応ができるよう、停電時の対応も含め訓練を繰り返すことが重要である。今後の取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレ等羞恥心を損なわない対応をし、行動する前の言葉かけも、尊厳を守る正しい言葉使いをするようにしている	入居者の介護記録等は、外部の目に触れない書庫に保管している。職員は採用時に、守秘義務の誓約書の提出している。職員は、排泄の介助時は羞恥心に配慮し、直接的な表現をしないことを心掛けている。また外部講師による接遇マナー研修を実施し、敬語での入居者への言葉掛けを周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな行動をするにしても、自己決定ができるような言葉かけに気をつけている。質問の仕方や言葉を発せられるような言葉かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の流れは決まっているが、その人の思いや考えを優先し、ドライブや散歩、お昼寝等希望に沿った支援をするようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は自分で洋服選びをして頂き、行事の際はお洒落着を着て頂いたり、その人らしい服装になるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作ったという実感を持って頂きたく、野菜の皮むきや豆のすじ取り等、その方の能力に合わせてできる作業をして頂いている。又、片付けもして頂いている	食事は、職員の手作りであり、野菜中心で6品目を目標として、冷蔵庫の食材を用いている。きざみ、とろみ、ソフト食にも対応している。入居者が野菜の下拵えを手伝う日もある。季節毎に恵方巻や、ちらし寿司を作り、敬老会では刺身を提供したり、パンの日、麺の日を設ける等、食事が楽しいものとなるよう工夫して支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を摂るコップに印をつけ、1日に1Lは摂れるように提供している。食事形態もその方に合わせ刻み・ミキサー等提供している		

グループホーム希望の家（ユニット1・2・3共通）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分でして頂き、出来ない所を手伝っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンをスタッフで把握し統一している	昼間は、トイレでの排泄を基本としている。眠りスキャンを活用し、夜中でも迅速に排泄介助を行っている。昼間、ポータブルトイレには、カバーを掛けたり、収納場所を工夫し羞恥心に配慮している。パッドは事務室で管理しており、職員間で入居者一人ひとりのパッドの大きさを検討し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日規則正しい生活に心がけている。野菜中心の食事の提供や個々に応じた時間でトイレの案内を行っている。腹部マッサージや緩下剤の服用等を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前の体調管理確認を行い、拒否がある時は中止している。柚子や菖蒲を入れたり、心身共にリラックスできるサービスや、個々のニーズに合った支援を行っている	週6日、入浴の準備をしており、平均して週2回の割合で支援している。介護度の高い入居者には、リフト浴を活用している。入浴拒否がある場合は、強制しないよう配慮しており、毎朝清拭を行い清潔保持に努めている。季節によって、菖蒲湯や柚子湯を提供し、入浴が楽しいものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はリビングのソファや畳などでくつろいで頂き、夜間はエアコンを利用して気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ダブルチェックを必ず行うと同時に、副作用等で体調に変化がある時の為、常に気を付けるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビを見る、会話を楽しむ、手先を使う、お手伝いをされる等、それぞれに合った楽しみ方を見つけて過ごされるよう支援している		

グループホーム希望の家（ユニット1・2・3共通）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の時は地域の方と交流が出来なかったが、現在はドライブや買い物支援、ふるさと訪問なども再開した	日常では近隣を職員とともに散歩したり、菜園の手入れ等、外気に触れる機会を多く設けている。コロナ禍を経て、近隣の植物園へのドライブや花見も再開している。また“ふるさと訪問”と称して自宅周辺を訪問する企画もある。「外出したい」という声に当日応えられなくても、実現できるよう職員間で共有を図り実行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要かどうか一緒に考えて話し合いをしている。本人が所持している安心感で自己管理している方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の家便りで日々の生活をお知らせしたり、オンラインで通話をしたり、知り合いの方へ手紙を書き送られている。HPやSNSで利用者の様子を見られるようにもしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾りつけで季節を感じて頂いたり、リビングではゆっくりテレビを見て楽しめるようソファの配置に気を付けている。又、共用トイレには消臭剤を置き、不快にならないよう気を付けている	自然に囲まれ、敷地内の家庭菜園や木々から季節の移ろいを感じることができる。各ユニットには、季節毎の飾りつけがある。リビングには観葉植物を置き、ソファでは入居者がテレビ鑑賞したり、横になったりと思い思いに過ごしている。気になる臭気はなく、畳のスペースやキッチンからの食事の匂いは、家庭の温かみがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自好きな居場所が決まっており、おしゃべりを楽しんだりして皆で休める空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品、写真、テレビ等を置いている。自宅で使われていた家具や日用品を居室内に置き、居心地よく過ごせるようにして頂いている	持ち込み品に制限はなく、筆筒や調度品、仏壇や写真、テレビやラジオ等を入居者の動線に合わせて配置している。鏡や櫛等身だしなみへの配慮も窺える。居室には温度計を備え、本人に確かめながら調整している。清掃担当職員による床掃除や、毎週のシーツ交換、換気により、快適に過ごせる居室となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の所に目印を置き、自分の居室が解るようにしている。又、文字で大きく表示している		